

# まちづくり市民オンラインワークショップ 結果報告

日 時：令和3年8月7日（土） 午後2時～午後4時

参加者：職員3名、市民5名

開催方法：ZoomによるWeb会議



## テーマ

居心地の良い「新保健福祉施設」にするために

お題①：あなたの考える「新保健福祉施設」のイメージ

お題②：市民交流機能に求めるもの

## お題①：あなたの考える「新保健福祉施設」のイメージ

### <代表的な意見>

- ・子どもと奥さんが使いやすい環境、Wi-Fi環境の整備、交通アクセスが重要
  - ・子どもと高齢者の交流。一時的な学童ルームとしての利用
  - ・来館した方が、そこでお茶を飲みながら育児の愚痴を言い合うような場所
  - ・龍ヶ崎市の食材（地産品）の販売
  - ・明るい感じ、今の保健センターは暗い。土足で入れるようにしてほしい、BGMを流しては？
  - ・子どもと交流の中で、例えば授業の一環で、スクールバスで新保健福祉施設に児童を連れてきて、そこで地元のおじいちゃん・おばあちゃんと交流できるような場
  - ・子どもを使って親を引き出すような考え方
  - ・子どもが少なくなってきた。共働き世代の学童ルームや送迎ステーションのような機能はどうか
  - ・農業体験などを行い、そこでふれあい、やりがいなどを共感してはどうか。旧市街地の方がニュータウンの方に農業を教えるなど。食文化の伝承にもつながる
  - ・子ども食堂を行い、その料理はおばあちゃんが作る。地元の人材をつかってはどうか。
  - ・人に来てもらいたいときに、その施設には常に人が出入りしていないと難しいのではないか。
- 新保健福祉施設に来れば何かがあり、誰かがいるような空間となればいい
- ・高齢者の過ごし方として、老人ホームなどの有料施設に入居する人と自宅で過ごす方の2パターンがいると思う。一人暮らしの方が集う場、またはこの施設が健康拠点となればいい。
  - ・介護には思ったよりもお金がかかる。どのくらいの費用がかかる、こんな時にどうすればよいかなどの悩みを共有できるような場がほしい。

## お題②：市民交流機能に求めるもの

### <代表的な意見>

- ・ストリートピアノの設置、お見合いなど
- ・フリーの個室、地元の食材を使った市民交流
- ・カフェは難しいと思う。スタバだからコーヒーを飲みに来るので。住んでいる人・施設を利用する人が自発的に活動する空間
- ・「四季の丘」に住んでおり、1Fホールに無料でお茶が飲める場所がある。そこで井戸端会議のようなものを週1くらいで行っている。その程度で良いのではないか。
- ・地元の農産品や残り物でおいしいものをつくるような講座も良いのではないか。若いお母さんは喜ぶと思う。例えば、講座の収益をその運営に充て、自主財源での運営ができれば理想。
- ・スタバのようなものは必要ない。話ついでにコーヒー程度が丁度いい。家庭菜園のようなものがあれば人も集まるのでは。
- ・市民交流スペースに来て地元の食材を味わってもらおう。それを地元の企業が週替わりで行ってみては。
- ・どうやって若い人に来てもらうかが重要。植物の育て方や野菜の作り方を学べるだけでも需要はあるのではないか
- ・屋上の活用、オープンカフェ、ハンモック、レンタル農園
- ・おしゃれな場所は必要ない。市民に必要な機能をそなえてくれればいい
- ・持続可能な施設としてほしい。
- ・機能的であれば、施設のこだわりはない。セラピードッグなど、人ではなく犬を使った交流もありでは？
- ・建物にこだわりはない。そこで何ができるかが大切。ワークショップのほかに、りゅうほーなどで新保健福祉施設が変わること、そのアイデアを募集していることを広報しては？
- ・電気自動車の充電スペースがあったらいい。耐災害性でも有効。
- ・バリアフリーに加え、標識などもユニバーサルデザインにも配慮してほしい。

前提として…、参加者は「保健センターを利用する機会のない方」が多かった。

- ◆ 意見の多くは、市民交流機能で何ができるか。運用の話がほとんど。
- ◆ 窓口のイメージ、健診対応についての議論は深められず。H26市民ワークショップでも同傾向であったため、サービス動線や健診室仕様などの細部機能については、こちらの裁量に委ねられていると感じた。
- ◆ 「機能的であれば…」という意見が多数。施設の特徴よりも維持管理を考慮。
- ◆ 「人を集める」、「来た人が利用する」の議論は、双方の意見が挙げられた。
- ◆ 「市民交流機能にカフェ（お茶？）があったらいい」という意見がある一方、スタバまでは要らないという意見も。
- ◆ 高齢者や育児中のママが新保健福祉施設内で話ができる場所があればいい。
- ◆ 地元の食材を使った料理教室、野菜の作り方講座などは面白いが、逆を言えば、何かのきっかけが無ければ“市民交流（世代間交流）”は難しいとも言える。